

143号

- ・ 4月例会は村国山探訪と花見をしました。
- ・ 府中町屋倶楽部が「越前府中まちなか博物館」に。
- ・ 3月の例会では「越前府中まちなか博物館」めぐり。
- ・ 来年の『絵暦』の撮影が始まっています。
- ・ 毎月会員が増えています。
- ・ 催し物案内

4月9日(土)は絶好の花見日和でした。10時に帆山橋近くの河川敷に集合して、坐漁庵の横から村国山に登りました。帆山寺から山道を廻って、芦山観音まで登り、展望台の方へ下りてくる2時間ほどの行程は、ほどよい散歩でした。山道にはカタクリ、ニリンソウ、ショウジョウバカマ、イカリソウ、スマシ、ネコノメソウ、エンレイソウ、ノミノフスマなどが咲いていました。桜のほかコブシの大木、アオキ、藪椿が多いことにも驚きました。クロモジやシロモジの新芽がまるで花のように見えまして、クマシデはかんざしのような花を付けていました。

昭和8年11月、夫の与謝野鉄幹とともに武生を訪れた晶子は、村国山を愛でて、「まばらにも越の武生の灯の浮かぶ 村国山のしのめの霧」

「日野川の観音谷の秋に咲く山桜こそあはれなり」と詠んでいますが、街中にこんなにも自然豊かな山があることの幸せを改めて感じました。

それにしてもこんなに天気のよい土曜日に、この山道で出会った人が4、5人というのは一体どういことでしょうか。私たちが子供の頃は花見弁当を開く場所を見つけるのが難しいほど、人があふれていましたのに。

府中町屋倶楽部が「越前府中まちなか博物館」

に認定されましたので、建物の由来、商工便覧、古い写真などをパネルにして展示しました。昭和30年代のあの通りは、商店の櫛比する繁華な場所だったことがよく分かります。

今年の『絵暦』はビオトープとしての日野川を取り上げましたが、来年は同じくビオトープとしての村国山をテーマにしたいと考えています。すでに去年の秋から、河合俊成さんがさまざまな山の表情を写真に撮って下さっています。「村国山の此処こそ」という場所がありましたら出版部までお知らせ下さい。(電：0778-23-1834)

3月の博物館めぐりの機会に3名、今月の村国山散策の時に1名会員が増えました。一層人の輪が広がって行くことは、嬉しいことです。

ベアテ・ショロタ・ゴートン女史講演会

4月22日(金)19時、武生市文化センター中ホール『日本国憲法』の第14条(法の下での平等)第24条(家族生活における個人の尊厳と両性の平等)などの草案作成に携わった1923年生まれの米国人女性が日本語でその秘話を語ります。

映画『風音』(同封のチラシ参照)

この映画は1945年米軍の沖縄上陸作戦で、人口の4分の1に当たる住民と兵士、約25万人が死亡した沖縄の物語です。